

年度	令和4年度(中期計画1年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	普通科と芸術系学科からなる本校の特性を生かした感性豊かな人材の育成。地域社会の芸術文化の担い手の育成。
年度重点目標	○「高円高等学校」40年の歴史を継承しつつ、普通科・音楽科・美術科・デザイン科に学ぶ生徒が協働することで「高円芸術高等学校」発展への基礎を固める。 ○異なる科で学ぶ仲間が存在が、お互いの成長に寄与していることを実感できる教育活動を積極的に展開する。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	(アドミッション・ポリシー) 入学者の受け入れに関する方針	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 本校の使命や教育方針を理解する生徒。 2 自ら考え、自ら行動し、他者との対話を通じ、学習活動に協働的に取り組むことができる生徒。 3 互いの立場を理解しようとする人権尊重の精神を持ち、他者との関わりを通じて自己の成長を目指す生徒。 4 普通科においては、基礎的な学力を身につけ、学習活動に主体的に取り組むことができる生徒。 5 音楽科・美術科・デザイン科においては、自己の表現を探索し続ける姿勢と、生涯にわたって芸術文化に関わっていくとする熱意にあふれ、学習活動に主体的に取り組むことができる生徒。
	(カリキュラム・ポリシー) 教育課程の編成及び実施に関する方針	本校では、主体的な学習態度に根ざした確かな学力の醸成・芸術文化の薫り漂う学習環境に根ざした豊かな人間性の醸成・他者とのつながりと自己理解に根ざした健やかな心身の育成を教育方針とし、その実現のため、以下の教育を行います。 1 生徒一人一人の興味・関心に応じた科目選択が可能なカリキュラムを編成します。 2 奈良県唯一の「芸術高校」を名乗るのにふさわしい「学校設定科目」を開設し、すべての学科において、芸術文化の担い手の育成を目指します。 3 基本的な生活習慣を身につけさせ、規律ある学校生活を送ることができるよう、規範意識を育みます。 4 主体的な学習態度である「PDCA」サイクル【Plan:計画】【Do:実施】【Check:評価】【Act:改善】を身につけさせる学習指導を行います。 5 学習活動のすべての場面において、人権尊重の姿勢を育み、生徒の自己肯定感を高める指導を行います。 6 保健・食育指導等を通して、体力の向上を図り、心身の健康への意識を高める指導をします。
	(グラデュエーション・ポリシー) 育成を目指す資質・能力に関する方針	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 他者とのつながりを大切に、自己の成長につながる努力を、卒業後も主体的に取り組み続けることができる。 【普通科】確かな学力と、芸術文化を理解する力に裏付けられた豊かな人間性を基盤に、地域社会への貢献を意識して主体的に行動する人材。 【音楽科】音楽文化の創造と発展に寄与し、地域社会に貢献しようとする人材。 【美術科・デザイン科】生活の中の造形や美術文化に関心を持ち、地域社会に貢献しようとする人材。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和4年度末の目標値等(C)	令和4年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
子どもと 身の成長に 合わせては ぐくむ	体力の向上	○体育の授業にトレーニングや柔軟運動を随時取り入れ、「基礎体力の向上」を実感した生徒の割合70%以上を目指します。	○体育系部活動の所属率を高めるとともに、体育の授業にトレーニングや柔軟運動を随時取り入れ、「基礎体力の向上」を実感した生徒の割合50%以上を目指します。	○令和4年度学校アンケートにて「高円」入学後の学校生活を通して基礎体力が向上したと考える生徒が62.5%でした。	○アンケート結果から目標の50%を達成できました。	○生涯を通じて「スポーツ」を楽しむ意識の醸成を期待します。	○体育の授業にトレーニングや柔軟運動について、より「基礎体力の向上」を実感できるよう改善するとともに、体育系学校行事の充実を図ります。
	心身の発達	○スクールカウンセラー指導監修のもと「ピアクラブ委員会」に所属する生徒が学期に2回「ピアクラブ便り」を発行、時期に応じたセルフメンタルケアの方法等を紹介しします。 ○子どもを理解する一助とする目的で、年2回、保護者宛「スクールカウンセラー便り」を発行、高校生の心の発達について情報提供します。 ○以上の取り組み等をおし、本校は「メンタルケア等に役立つ情報を発信している」と感じた生徒及び保護者の割合70%以上を目指します。	○スクールカウンセラー指導監修のもと「ピアクラブ委員会」に所属する生徒が学期に2回「ピアクラブ便り」を発行、時期に応じたセルフメンタルケアの方法等を紹介しします。 ○子どもを理解する一助とする目的で、年2回、保護者宛「スクールカウンセラー便り」を発行、高校生の心の発達について情報提供します。 ○以上の取り組み等をおし、本校は「メンタルケア等に役立つ情報を発信している」と感じた生徒及び保護者の割合50%以上を目指します。	○計画通り、毎学期「ピアクラブ便り」と「スクールカウンセラー便り」を発行した。学校アンケートにて「学校は心身の健康に役立つ情報を発信している」と回答した生徒は64.7%、「校内での人間関係は良好である」と回答した生徒は83.9%でした。 ○2学期開始直前に「教育相談だより」を全校生徒にメールで配信し、毎長期休業明けに「こころのケアシート」を全校生徒に実施した。保護者には三者懇談会の時に「スクールカウンセラー便り」を発行し子ども理解に役立つ情報を提供した。学校アンケートにて「先生は個々の生徒理解に努めている」と回答した生徒は75.6%、「教員はお子さまの学校生活における様々な問題に適切に対応している」と回答した保護者は83%でした。	○アンケート結果から目標の50%を達成できました。 ○各取り組みについて概ね目標を達成しました。	○先生方の日頃の教育活動を評価します。今後も生徒の実態に即した支援をお願いします。	○現在の取り組みを発展的に継続することを通して、生徒のメンタルケアに努め、生徒の自己肯定感を高めます。
	望ましい食習慣の確立	○「食育だより」を年1回発行し、朝食の大切さや食事の重要性を呼びかけます。 ○育友会との連携を図り、食育をテーマとした「保護者対象講演会」を年1回実施します。 ○以上の取り組み等をおし「食習慣等の基本的な生活習慣が身についている」と感じた生徒の割合70%以上を目指します。	○「食育だより」を年1回発行し、朝食の大切さや食事の重要性を呼びかけます。 ○以上の取り組み等をおし「食習慣等の基本的な生活習慣が身についている」と感じた生徒の割合50%以上を目指します。	○令和4年度学校アンケートにて食習慣等の生活習慣が身についていると考える生徒が75.6%でした。	○アンケート結果から目標の50%を達成できました。	○「食」は全ての営みの基本であることを教育活動を通じて伝えていただきたい。	○現在の取り組みを発展的に継続することを通して、より多くの生徒に食習慣等の基本的な生活習慣を身に付けさせることを目指します。
学ぶ 力を 求む る考 えを はぐ くむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○本校の特色ある授業の授業研究を実施し、授業改善に向けた教員研修の機会とします。 ○本校での学習活動により「学力が伸長した」と実感した生徒の割合90%以上を目指します。	○第2学年(高円芸術1期生)第Ⅱ類型の「数学科」習熟度別クラス編成講座をはじめとした特色ある授業の授業研究を実施し、授業改善に向けた教員研修の機会とします。 ○本校での学習活動により「学力が伸長した」と実感した生徒の割合70%以上を目指します。	○2学期の公開授業月間(11月)に授業改善に向けた職員研修を行いました。 ○令和4年度学校アンケートの結果、「授業をとおして、学力が向上した」と考える生徒は63.4%でした。	○職員研修の実施により、授業改善を考える機会を設定できました。 ○アンケートの結果、目標値としていた70%以上には少し及びませんでした。	○学校アンケートの結果は、教育活動についての満足度は高い数値を示しています。素晴らしいことです。今後は、学校での営みが、家庭学習に有機的に繋がる方策を、学校と育友会が連携していく必要があります。	○提言を受け、校内委員会の再構築ならびに育友会との連携を深め、家庭学習習慣の定着を図ります。
	学習意欲の向上	○全科目において生徒の「PDCAサイクル」の醸成を目標とした授業を展開します。 ○年に2回、情報交換のための職員研修会を開催します。 ○本校での学習活動により「学習意欲が向上した」と実感した生徒の割合80%以上を目指します。	○全科目において生徒の「PDCAサイクル」の醸成を目標とした授業を展開し、年に2回、情報交換のための教員研修を開催します。 ○本校での学習活動により「学習意欲が向上した」と実感した生徒の割合70%以上を目指します。	○生徒の「PDCAサイクル」の醸成を目標とした授業を展開するため、年に2回、情報交換のための教員研修を開催しました。 ○令和4年度学校アンケートの結果、「学校での学習活動により学習意欲が向上した」と考える生徒は54.2%でした。	○アンケート結果から、学習向上を実感した生徒は約半数にとどまり、目標値の70%には及びませんでした。		
	オンライン教育の推進	○「電子黒板」やBYODIによる生徒用端末を用いた各教科の授業研究を実施し、授業改善に向けた研修の機会とします。 ○オンライン教育推進のための教員研修を、年3回以上実施します。 ○本校のオンライン教育への満足度90%以上を目指します。	○9月以降、導入される「電子黒板」(第1学年)を用いた各教科の授業研究を実施し、授業改善に向けた研修の機会とします。教職員の研修参加率95%以上を目指します。 ○オンライン教育推進のための教員研修を、年3回以上実施します。 ○本校のオンライン教育への満足度70%以上を目指します。	○「電子黒板」を用いた教職員の研修参加率はほぼ100%で、各教科の授業でも積極的に活用しました。 ○令和4年度学校アンケートの結果、「『classroom』等を通じての連絡等の活用」は82.82%でした。	○オンライン教育推進のための職員研修も実施できました。 ○本校のオンライン活用への満足度は70%以上で目標を達成しました。		

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和4年度末の目標値等(C)	令和4年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップの充実	○キャリア教育サポートセンター主催インターンシップ(夏期、冬期、春期)3回を実施するとともに大学と連携したインターンシップの取り組みへの参加を促し、就職を第一志望としている生徒の参加率90%以上を目指します。	○キャリア教育サポートセンター主催インターンシップ(夏期、冬期、春期)3回を実施するとともに大学と連携したインターンシップの取り組みへの参加を促し、就職を第一志望としている生徒の参加率70%以上を目指します。	○本年度インターンシップの募集をしたところ、夏期は3名の希望者があり、2名が希望する事業所で実習を行いました。冬期の希望者はありませんでした。	○本年度の3年の民間企業就職希望者5名、全員が内定をいただいた。目標のインターンシップ参加率70%に概ね達成できました。	○令和4年度の取り組みを発展的に継続していただき、より効果的な学年別「進路ガイダンス」の実施方法について検討します。事前学習と事後学習の時間を確保し、卒業後の進路実現を見据えた「キャリア形成」の機会を確保します。大学と連携したインターンシップの取り組みを進めます。	
	産業界との連携の推進	○進路講演会「職業人に聞く!!」を年1回開催し、その成果が自身の職業選択のきっかけとなる学問への興味につながるよう生徒に働きかけます。 ○本校の取り組みが「将来を見据え具体的に進路を考えるきっかけになった」と実感した生徒の割合90%以上を目指します。	○進路講演会「職業人に聞く!!」を年1回開催し、その成果が自身の職業選択のきっかけとなる学問への興味につながるよう生徒に働きかけます。 ○本校の取り組みが「将来を見据え具体的に進路を考えるきっかけになった」と実感した生徒の割合70%以上を目指します。	○進路講演会「職業人に聞く!!」を2年生で実施しました。趣向を変えた形の講演会を開催し、生徒のアンケート結果は1、3年に比べて肯定的な数値でした。	○アンケート結果より目標の70%を達成できました。		
	キャリア教育の推進	○第1学年は「分野別進路ガイダンス」、第2学年は「学問別分野ガイダンス」、第3学年は「面接マナー講習会」及び「志望理由書対策講座」を実施します。また「大学等キャンパス見学会」及び「会場型進学ガイダンス」を実施します。 ○本校の取り組みが「自身の進路選択に役立った」と実感した生徒の割合90%以上を目指します。	○第1学年は「分野別進路ガイダンス」、第2学年は「学問別分野ガイダンス」、第3学年は「面接マナー講習会」及び「志望理由書対策講座」を実施します。また「大学等キャンパス見学会」及び「会場型進学ガイダンス」を実施します。 ○本校の取り組みが「自身の進路選択に役立った」と実感した生徒の割合70%以上を目指します。	○各学年の「進路ガイダンス」や「キャンパス見学会」「会場型進学ガイダンス」を実施した。生徒アンケートによると「進路ガイダンスは有益でした。」と考える生徒は1年では70.5%、2年75.4%、3年66.4%でした。	○アンケート結果より、「自身の進路選択に役立った」と回答しており、目標の70%を達成できました。		
地域と協働し活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	○学校運営協議会を年3回開催し、本校の教育活動への評価及び、本校の発展について意見交換の場をもちます。	○学校運営協議会を年3回開催し、本校の教育活動への評価及び、本校の発展について意見交換の場をもちます。	8月上旬に本校にて「第1回学校運営協議会」を開催。12月上旬に書面にて「第2回学校運営協議会」を開催。年間総括に向けた「第3回学校運営協議会」は3月上旬の開催を予定しています。	目標達成 (様々な角度から、本校の活動を応援するご意見をいただいています。貴重なご意見を、教育活動に積極的に取り入れていきたい。)	○令和4年度の取り組みを発展的に継続していただきたい。	○意見聴取の機会を継続的に設け、より多くの提言をいただけるよう、より円滑な学校運営協議会の実施を目指します。
	郷土の芸能、文化、自然等に関する学習の推進	○一年次の「総合的な探究の時間」でおこなう、「ならまち探索」「正倉院訪問」等をおとし郷土奈良への理解を深めます。 ○本校の取り組みを通して「郷土への理解や興味が高まった」と実感した生徒の割合90%以上を目指します。	○一年次の「総合的な探究の時間」でおこなう、「ならまち探索」「正倉院訪問」等をおとし郷土奈良への理解を深めます。 ○本校の取り組みを通して「郷土への理解や興味が高まった」と実感した生徒の割合70%以上を目指します。	令和4年度学校アンケートでは、本校の取り組みを通して「郷土への理解や興味が高まった」と実感した生徒が51%でした。	目標達成 (全ての生徒が第1学年の「総合的な探究の時間」で「奈良TIME」の探究活動を進めます。1年次に身につけた素養を学年進んで深化させることを目標とした授業内容を検討し、教科横断的に取り組めるよう教育課程を検討します。)	○「正倉院見学」等への満足度が非常に高い。本校ならではの立地を活かし、現地学習の積極的導入を期待します。	○「郷土理解」に関する学習の機会を、3年間を見通して計画できるような教育課程を検討します。
	芸術文化活動の推進	■普通科■ ○特色ある学校作りを目指した学校設定科目である「総合芸術探究」や「伝統芸術探究」での学びを活かして、選択生徒が様々な学校行事において運営に参画するとともに、成果を発表します。 ○普通科の取り組みへの満足度90%以上を目指します。	■普通科■ ○40周年記念行事の運営に、第2学年(高円芸術1期生)第1類型「総合芸術探究」選択生徒が参画し、学習の成果を発揮します。 ○第2学年(高円芸術1期生)第1類型及び、第3学年(高円38期生)「伝統芸術探究」選択生徒が学習の成果を高円祭の舞台上で発表します。 ○普通科の取り組みへの満足度70%以上を目指します。	○「総合芸術探究」選択生徒が本校40周年記念行事の運営に参画し、学習の成果を発揮しました。 ○3学年、2学年の「伝統芸術探究」選択者が高円祭において箏曲の演奏を発表しました。 ○令和4年度生徒用学校アンケートにおいて「春の校外学習」に満足している。70.4%、「高円祭」に満足している80.6%、「校内体育大会」に満足している。75.2%、本校の「芸術・文化活動(記念演奏会・芸術鑑賞会・高円美術展)」に満足している。80.4%でした。	○本校40周年記念式典「総合芸術探究」選択生徒が運営に参画し、学習成果を発揮しました。 ○「高円祭」において「伝統芸術探究」選択者が箏曲の演奏発表を果たしました。 ○アンケートの結果から、各項目にわたり目標の70%を達成しました。	○令和4年度の取り組みの継続を期待するとともに、新型コロナウイルス感染症5類引き下げに伴う「学校教育におけるガイドライン」の状況を見極め、生徒の活躍の場が更に増加することを期待します。	○今年度の取り組みを発展的に継承するとともに、アフターコロナ時代のアウトリーチ活動を進めます。また、各科相互の連携を深め、各科の生徒がより高いレベルで競い合うことができる環境づくりを進めます。
		■音楽科■ ○様々な行事での演奏並びに、定期演奏会での演奏に向け、計画的に学習活動を進めます。 ○卒業演奏会での発表を3年間の学びの集大成とします。その経過点として、月例ホールコンサートを年間8回開催します。 ○地域と連携したアウトリーチ活動にも積極的に取り組みます。 ○音楽科の取り組みへの満足度90%以上を目指します。	■音楽科■ ○本校40周年記念式典での演奏並びに、第31回定期演奏会の開催に向け、計画的に学習活動を進めます。 ○令和5年3月に、第30回卒業演奏会(秋篠音楽堂)を開催します。 ○月例ホールコンサートを年間7回開催します。 ○コロナ禍の現状を的確に見極め、アウトリーチ活動(地域との連携や協働)にも積極的に取り組みます。 ○音楽科の取り組みへの満足度70%以上を目指します。	○本校40周年記念式典演奏(国歌、校歌)並びに、第31回定期演奏会を開催し、計画的に学習活動を進めることができました。 ○令和5年3月4日に、第30回卒業演奏会(秋篠音楽堂)を開催します。 ○月例ホールコンサートを年間7回開催しました。 ○コロナ禍の現状を的確に見極め、奈良市主催アウトリーチ活動、終業式においてJNOメンバーとのアウトリーチ活動等積極的に取り組みました。	○予定していた取組(行事)をほぼ実現することができました。また、国際音楽交歓コンサート付帯事業への参加は芸術文化活動の推進に繋がるものとなりました。 ○アンケート結果から目標の70%を達成できました。		
■美術科・デザイン科■ ○高円美術展を開催し、年間の学びの集大成とします。その経過点として様々な展覧会等への出品に向けた創作活動に取り組みます。 ○地域と連携した活動に積極的に参加します。 ○美術科・デザイン科の取り組みへの満足度90%以上を目指します。		■美術科・デザイン科■ ○本校40周年記念式典のロビー展示に、本科の生徒の作品を展示します。 ○12月、高円美術展(奈良県文化会館展示室)を開催します。 ○地域連携事業に年間3回以上(奈良市中学校美術部合同展への協賛出品、奈良大文字送り火チランデザインコンペ等)参加します。 ○美術科・デザイン科の取り組みへの満足度70%以上を目指します。	○本校40周年記念式典でのロビー展示では、美術科・デザイン科2、3年生の選抜作品20点を展示しました。出品生徒と共に普通科総合芸術探究選択者も運営に関わり、設営・案内等の役割を担いました。 ○高円美術展は、美術科・デザイン科の生徒全員の作品約600点を展示しました。800名以上の来場者があり、保護者や地域の方々から多くの感想をいただきました。 ○地域連携事業には、奈良大文字送り火チランデザインコンペ、奈良警察署へ交通安全絵馬寄贈、飛鳥こどもミュージアム2022への作品出品、等に取り組みました。	○展覧会を生徒と一緒につくっていくという点で意義深い機会でした。 ○今年もたくさんの方を迎えることができました。県文化会館が改修のため使用できないため、展覧会の形態をどのようにしていくかが課題です。 ○今後も地域や様々な団体からの要請については広く受け付けていきたい。 ○アンケート結果から目標の70%を達成できました。			
地域で個性が仕輝く環境を境つくる	人権教育学習資料の活用	○『なかまとともに 高等学校』(奈良県教育委員会発行)を、人権教育のホームルーム活動で積極的に活用します。 ○毎月11日の「人権を確かめ合う日」にあわせ、啓発プリントを発行し、生徒が人権意識の醸成を図ることのできるよう、教材を提供します。 ○本校の取り組みをおとし「人権に対する意識が高まった」と実感した生徒の割合90%を目指します。	○『なかまとともに 高等学校』(奈良県教育委員会発行)を、人権教育のホームルーム活動で、全学年で年2回以上活用します。 ○毎月11日の「人権を確かめ合う日」にあわせ、啓発プリントを年4回以上発行し、生徒が人権意識の醸成を図ることのできるよう、教材を提供します。 ○本校の取り組みをおとし「人権に対する意識が高まった」と実感した生徒の割合70%を目指します。	○各学年人権ホームルームでは、『なかまとともに』の内容で展開しました。 ○令和4年9月から令和5年3月まで、5回の通信を発行しました。 ○令和4年度学校アンケートにて「ホームルーム等の取り組みをおとし、『人権』について考えるようになった」と回答した生徒は73%でした。	○『なかまとともに』の活用は目標を達成しました。 ○通信の発行は目標を達成しました。 ○アンケート結果より、満足度70%以上を達成しました。	○令和4年度の取り組みの継続を期待します。	○令和4年度の取り組みを発展的に継続し、生徒の人権意識の向上に努めます。
	学校いじめ防止方針に基づく取り組みの推進	○「いじめ・こころと生活等に関するアンケート」(奈良県教育委員会)を年2回以上実施します。 ○アンケート結果を分析し、適宜「いじめ対策委員会」を開き、それぞれの事案に迅速に対応します。 ○校内での人間関係に関する満足度80%を目指します。	○「いじめ・こころと生活等に関するアンケート」(奈良県教育委員会)を年2回以上実施します。 ○アンケート結果を分析し、適宜「いじめ対策委員会」を開き、それぞれの事案に迅速に対応します。 ○校内での人間関係に関する満足度70%を目指します。	○いじめ等に関するアンケートを、一学期末と二学期末の年2回実施しました。 ○令和4年度学校アンケートにて「校内」での人間関係は良好であると考えた生徒が83.9%でした。	○いじめ等に関するアンケートの年2回以上実施を達成しました。 ○アンケート結果より、満足度70%以上を達成しました。		
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の実効性のある活用	○生徒の実態に合わせた、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、合理的支援の必要性や方法について協議します。その内容は、本人及び保護者に随時確認するとともに、教員間で情報共有を図ります。 ○個々の生徒への教育支援に関する満足度90%を目指します。	○生徒の実態に合わせた、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、合理的支援の必要性や方法について協議します。その内容は、本人及び保護者に随時確認するとともに、教員間で情報共有を図ります。 ○個々の生徒への教育支援に関する満足度70%を目指します。	○中学からの個別の教育支援計画や個別の指導計画を引継ぎ、生徒と保護者と面談の上、必要な支援を協議し改訂版を作成しました。「生徒情報一覧」や教科担当者会で教員の共通理解を図り、支援しました。学校アンケートにて「先生は個々の生徒理解に努めている」と回答した生徒は75.6%でした。	○アンケート結果から目標の70%を達成できました。		

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

学校アンケートにおいて、「お子さまを本校に入学させて良かった(90.5%)」「本校の教育活動や指導内容に共感している(83.2%)」「本校の教員は、お子さまの学校生活における様々な問題に適切に対応している(83.0%)」「学校生活の規律に対する、本校の指導は適切である(86.3%)」との、高い評価を得ている。日々の教育活動の成果が「個々の生徒の成長」という目に見える形に表れている証と捉えている。この結果に慢心することなく、今後も、生徒・保護者との連携を密にし、安心して安全な学習環境のもと「社会に貢献できる力」を育む教育活動をめざしていく。